

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、これより3番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

本日は県内各地で小学校の卒業式があつております。私も長男が小学校卒業ということで、午前中は卒業式に行つてまいりました。その際に、教育長がうちの小学校にお越しいただいてごあいさついただいております中で、教育長から子どもたちへのメッセージでですね、「今を大切に」、そこまでは私もおっしゃることはよくわかっていたんですけど、その後に続く言葉で、「言葉にできる夢を持ちなさい」と子供におっしゃいました。その言葉を聞いて、おっと、やっぱり武雄市はよか教育長ば持つとつねていうとばですね、つくづく感じた次第です。ただ、私も午前中は子どもの、息子の卒業式でちょっと感動して泣いておりましたので、胸中若干情緒不安定なところがありますけれども、一生懸命頑張ってやっていきたいと思います。今回も最終日の最終バッターという、何か知らないですけど、私の定位置みたいな感じになってしまっております。24回して、5度目の最後ということで、（「アンカー」と呼ぶ者あり）アンカー、ちょっとまあ、できる限り頑張りたいと思います。（全般モニター使用）

それでは、今回、私、毎度毎度でありますけれども、武雄市の今後の方向性について、大きく3つ、新幹線と観光について、2番目に教育について、3番目に安全・安心について、それを細分化するとこんな感じになるのかなというところで進めてまいりたいと思います。

それでは、まず1番目の新幹線と観光についてであります。

これも昨日の質問のほうでは出ておまして、この九州新幹線西九州ルートがですね、この赤のルートになります。この新幹線ですね、これまでの経緯から行きますと、平成30年の春開業と言われておったわけですがけれども、これ、現在の状況の、まず確認をさせていただきたいなと思います。御答弁のほうをよろしくお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

新幹線の西九州ルートの現状ということでございます。

昨年の12月の26日、整備新幹線3路線について政府決定がなされたところでございます。西九州ルートの長崎までの延伸、それから武雄温泉間、それから武雄温泉－肥前山口間の複線化が事業含む事業決定がなされたところでございます。

これにつきましては、武雄温泉から長崎までを標準軌による規格で整備を行うと、それから開業時期につきましては、諫早－長崎間の着工後、今回ですけれども、おおむね10年後ということでございまして、現在、武雄温泉－諫早間につきましては、平成30年の3月に目標をしておりますけれども、それから4年延びるというような状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

政府の決定から行くと、開業が30年春から34年ごろになるんじゃないかというところですね。4年間延長されるんじゃないかというところでもあります。

それでは、これもちょっと整備新幹線の手続状況、これを画面にすると全然見えなかったもんですから、九州だけをちょっとピックアップしています。ただ、これでも若干小さいんで、なかなか見えるかどうかわからないんですけど、このスケジュールで行くんじゃないかなというところではあるんですけど、そのフリーゲージですね、政府決定を受けたフリーゲージ、フリーゲージが今現在状況的にはどうなのかというのは、これもきのうの質問で出ておりましたけど、フル規格であればもちろん山陽新幹線乗り入れオーケーですよと、でも、フル規格じゃなければ、フリーゲージじゃないと、スーパー特許方式のままだとだめなわけですよ。で、フリーゲージじゃないとまず無理、可能性としてはゼロになるわけですよ。

そしたら、フリーゲージがまず最低条件にはなってくるんじゃないかと思いますが、このフリーゲージの進捗状況ですね。というのも、私は先日、神戸のほうに出張に行ったときに、初めて神戸駅のホームで下りの列車に博多行き以外の新幹線に初めて乗ったわけですよ。というのも、鹿児島行きの「みずほ」やったわけですよ。帰りに、通常やったら博多で終点なんで、そのまますっと寝てていいというような感じやったんですけど、これは寝過ごしたら鹿児島まで行ったら大ごとねというような感じで、これはフリーゲージがまず最低条件で、それを武雄になると、このフリーゲージが最低条件になるんじゃないかと思いますが、これについての進捗状況、開発状況を、今、把握されている分の答弁を教えてくださいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

フリーゲージの開発状況ということでございます。このフリーゲージトレインにつきましては、非常に軌道をとといいますか、線路幅を変えるという技術を盛り込むというふうなことで、技術的な開発が危ぶまれるといいますか、心配されているところではございましたけれども、これまで開発については10年近く続けてきております。それで、その切りかえの技術が可能なのかどうか、あるいは速度が大丈夫なのか、あるいはカーブにおける耐久性がどうなのかというふうないろんな問題がございました。それについては、一つずつ問題解決の研究、あるいは試験が繰り返されておまして、昨年の10月の17日に、この軌間可変技術といいます、このフリーゲージの技術をいいますけれども、軌間可変技術評価委員会というのが昨年の10月17日に行われておまして、実業化に向けた基本的な走行性能に関する技術は確

立をしたということになっております。

現在、その中で一番問題になっておりました、また以前にも御報告をしとったかと思えますけれども、カーブにおける急曲線ですね、カーブにおきます走行性能が大丈夫なのかということにつきましても、昨年の10月までの試験の結果で安全走行性が認められたと、確認されたという状況でございます。

そういうことで、現在は在来線、J R 四国の予讃線のほうで耐久試験を、昨年の12月から実施をしております、今後3年間にわたりまして約60万キロメートルの走行耐久試験を実施するというふうなことでございます。その状況をまた見て判断をしていくということでございますが、基本的に車両についても、これまで4次車両ぐらいの改良が加えられてきております。さらに軽量化を図るということも含めまして、平成24年度には約62億円の予算を計上して、その製作に当たるということで聞いております。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

フリーゲージ、まだまだ開発、大分進んではおるけど、開発はまだまだ先になってくるような感じなんですかね。もうフリーゲージにしろ、フル規格にしろ、新幹線がこういうふう to 実現すると、もう真っすぐこの山陽新幹線となると、武雄から一発で中国、関西まで行けるというような流れになりますので、ぜひもうフル規格、フル規格実現してほしいなと思います。

これ、阪神甲子園球場です。武雄温泉駅で乗って、そのまま真っすぐ関西までとかですね、全然オーケーになってくるというのは、私はこれが一番メリットじゃないかなと思うとですよ、新幹線の。やっぱり博多駅で、今、どうしても特急で行って、階段をおりて、また上って、そして新幹線口に行って改札通って、私はそれが一番の新幹線効果じゃないかなと思っています。

これ、広島ビックアーチを、ちょっと写真を載せているところではありますけど、それでは、続いてこの、これもきのう出ておりましたけど、武雄温泉―肥前山口間の複線化、複線化もきのうの話が、もう答弁があっておりましたので、そこまではちょっと省きたいとは思っておりますけれども、この複線化がきのうの答弁は現在ルートの選定とかというものを今やっておられるということでありましたけど、今回、政府決定された、この武雄温泉―肥前山口間の複線化については、今後は事業認可に向けての準備が進められていくんじゃないかなと思っております。この際に必要になってくる、この事業認可を得るための障害というか、壁というのは、具体的に何になるのかというのをちょっと確認したいなと思ってます。

というのは、つまり沿線自治体の同意が必要なのか、J R 九州の同意が必要なのかとか、それ以外にもほかに何かあるのかというようなところを確認したいと思えますけれども、い

かがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

この複線化の見通しにつきましては、昨日、22番議員さんの御質問でもお答えをいたしまして、現在、認可に向けての国土交通省の小委員会のほうで検証が続けられておりまして、年度内に認可をというふうなことで、今、作業が進められているところでございます。

この認可着工に先立ちまして、満たすべき障害といいますか、条件といいますのは、今、ここの認可に当たっての5条件といいますか、着工に当たっての基本的な条件ということで、国土交通省がこれまで検討といいますか、条件をつけてきたものにつきましては、安定的な財源の見通しの確保、それから収支の採算性、それから費用対効果であります投資効果、それから営業主体としてのJRの同意と、それと並行在来線の経営分離と自治体の同意というふうなことで、5つ挙げられておりましたけれども、長崎ルートにつきましては、この5つのうちの4つをクリアいたしまして、最終的には営業主体としてのJRの同意というのが得られれば、認可というような状況になるということでございます。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

JR九州の同意だけということですね。私も国土交通省のホームページとか鉄道運輸機構のホームページで確認したら、そこだけしか載っていなかったのも、それだけでよかかなと思いついて見ていたところです。

そしたら、この新幹線がいまだに必要論、不要論が混在している状況というような感じで、ちょっと私が見ているところなんですけれども、これ、何でだろうかなと思ってですね、私は新幹線は必要だと思っている1人です。武雄にとっては、もうぜひ必要だなと思っています。いろいろ話を聞くと、開通後のイメージができていないんじゃないかというような話をちょこちょこ聞いたわけですよ。それで、本当簡単ではあるんですけど、新幹線が来た場合のことを想定して、ちょっとあれですけど、きのうもこれ、質問に出ていました。上下が31やったか32やったかで、これ、どっちも正解という話が出ていましたけど、現行の特急みどりハウステンボス号に加えていくと96本になっていくと、ここはもうあれですけどね、武雄温泉から新大村、諫早というふうなところのルートが、今まではなかったこのルートが64本になるというようなことで、武雄にとっても飛躍的に便利さは向上するんじゃないかなと思っています。

それ以降、先のことを見ると、福岡空港はもちろん従来どおりですよ。これ、福岡空港は本当便利な空港だと思います。これに上下96本のルートが出てくる。続いて、これ佐賀空

港ですね、佐賀空港はどちらかというと電車というわけではなくて、これは車でというふうな感じになるんじゃないかなと思いますけど、これは駐車場が無料ですので、車で行かれる方は、これは非常に便利な空港になると、これにプラスして、新大村ですよ。大村空港ですよ。大村空港は、これもう新幹線を使うとかなりの近距離になっていくよというところで、これに新幹線の64本が加わるとなると、武雄にとってはこれまた最短距離の空港ができるというようなところで、メリットはいろいろあるんじゃないかなと思ったわけですよ。

私は新幹線を整備すると、武雄市は観光振興、交流人口増加、定住人口増加、企業誘致の推進、産業の振興とか、いろいろ考えられるんじゃないかなというのが、これが地域活性化につながるんじゃないかと。だから、実現のためには有効なツールじゃないかなと思っておるんですけども、仮にこの新幹線が不要だというふうになった場合、これ、不要になった場合、この新幹線の予算というのが教育とか福祉とか、これまでもいろいろ答弁あっていると思いますけど、今回の、例えば、震災の復興とか、そういったところに予算が回せるものなのか、どうなのか、そこら辺をちょっと確認させていただきたいなと思います。

○議長（牟田勝浩君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

この新幹線が不要になった場合というふうなことの想定ではございますが、現在、私たちのほうでは、この新幹線については、西九州、九州含めて、武雄市も含めてですけども、市勢浮揚の一つの大きなツールというふうなことで認識をいたしております。ですから、これが不要になるということ、ちょっと想定をいたしておりませんので、それをどちらに回すとかいうお答えは、現在できかねます。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、回せないはずなんですよ。これは、もうここをやめると仮に想定した場合、よその新幹線にとられるだけの話ですよ。教育とか福祉には使えんわけですよ。国土交通省、これ、国がJRに譲渡した際の代金の一部が整備新幹線費に充てられていますので、新幹線整備費にしか使うことはできんということですよ。だからこそ、武雄市にとっては、いろいろいろんなことを考えながら、この新幹線を活用していく必要があっていくんじゃないかなと思っています。

であれば、この武雄市にとって、この新幹線、絶対生かさんといかんわけですよ。そうした場合に、やはりもっと県民の機運上昇を考えていく、市民の機運上昇を図っていくかんのかのじゃないかなと思いますけれども、これについての今の現状の取り組みのほうをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあね、いろいろやっていますけど、盛り上がりませんですよ。やっぱり30年が、また4年延びて34年になったりとか、私も生きているかどうかかわからんですもんね、本当。ですので、ちょっとスパンが長過ぎたということで、ちょっと今ね、お休みしていいと思いますよ。あのね、ずっとエネルギーを保持するというのは無理です。ですので、その間、我々行政も政治もやらなきゃいけないのは、これをきちんとやっぱり担保しないと、みんなその不安感があるわけですね。これ通っても通らんとやなかろうかて、私も何人かから言われていますので、今は政治と行政の段取りをするところだと思っています、ここ4年ぐらいは。

その間で、もう少し煮詰まってきて、例えば、フリーゲージが大丈夫だという話になったときに、やっと機運が盛り上がる、九州新幹線もそんな感じなんです。昔の新聞を見てみると、いや、盛り上がりがないとか、ちょうどこの時点でそう書かれているんですよ。ですので、やっぱり人生波あり谷あり（「山」と呼ぶ者あり）あ、失礼、山あり谷ありね、新幹線も山あり谷あり、ですので、そこは緩急自在にやっていきましょう。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

機運上昇の試みということで、ちょっと御紹介しますけど、武雄市には、今、新幹線活用プロジェクトというのがあるわけですね。これの平成22年1月24日、幹事会が開かれました。その際に、全国各地の駅弁を取り寄せて、試食品評ですよ、武雄市にメインになるような駅弁がないということ、今までずっとやっていました。そのときにでも、これがもう約2年前ですもんね。その2年間、そういう声を受けて、ある店舗のオーナーさんがそこから試行錯誤、ずっと努力重ねられてきたのが、こちらです。（弁当実物を示す）佐賀牛すき焼き弁当、はい。これがですね、佐賀牛すき焼き弁当が生まれました、ようやく。これが九州駅弁というコンテストがあるらしいんですね。これのグランプリをとられたと、今、物すごく人気らしくとですよ。

これ、実は体協にちょっと私行きました。体協に行ったときに、九州の駅弁ば聞きよんさつとですよ。でも、交換する人が「駅伝」に聞こえたらしくて、体協に言われて、有田に勝ちんさつたてでしょうというごとして、駅弁、何の話かさっぱりわからんやっぱってん、この話やったらしかとですよ。

〔市長「うまい。ネタやなか」〕

いやいや、ネタやなかですよ。もう本当、こういう取り組みは、短期間でできたわけじゃないかとですよ。これ長く時間をかけられて、ようやく生まれたこのすき焼き弁当です。こ

れも私は機運上昇の一つだと思うんですけど、これについての見解をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

こい、よかですか。

〔3番「食べちゃだめですよ」〕

食べちゃいかん。じゃ、モニターをすみません。（モニター使用）ちょっと一部ダブリますけれども、第8回の九州駅弁グランプリで決まったのが、佐賀牛のすき焼き弁当が優勝、あの有田焼きカレーを押さえての優勝なんですね。だから、いか三昧まで合わせると、佐賀県が上位3つを独占したという、すばらしい快挙になっているんですね。これが先ほどの弁当で、ここ、1,260円です。（弁当実物を示す）食べませんよ。すごいんですよ、本当。ちょっとごめんなさい、こんな感じです。お、こういう感じで、もう牛肉もたっぷり入っていますもんね、これ。いや、もうにおいもすごいですよ。これ、はい、先着1名様の方にプレゼントしようと思っていますけど、これがカイロ堂の池田さんですよ。

今、実はこれ東京の方々も多く見られていますので、あえて言いますと、京王百貨店の駅弁、有名な新宿のね、京王百貨店の催事コーナーで今出されています。大九州展ということで出されていますので、ぜひ関東にお住まいの方々は、お越しいただければありがたいというふうに思っています。これ、フェイスブックで書いたら、かなりやっぱ反響がありますので、彼が実際そこでつくって出しますので、お越しいただければありがたいというふうに思っています。あ、もう消してもらって結構です。

そういうことで、本当に偉いんですよ。池田さん本当に偉くて、これは単に売れるだけじゃだめで、要するにこれを通じて武雄の知名度アップにと、武雄の振興に寄与していきたいということを、本当におっしゃっているんで、そういう皆さんたちを我々は応援しなきゃいけないというふうに思っています。

先ほど新幹線の話が出ていましたけれども、もう新幹線の活用を飛び越して、それがきっかけとなって、武雄の振興そのものになっているということで、これは予想外のことでしたので、頑張っている皆さんたち、これ、武雄の商工会の皆さんたちも、物すごく駅弁で頑張っておられるんですよね。ですので、そういったことで、ぜひ我々としても応援をしてまいりたいと、このように思っております。これ、上田議員、どうでしょうか。要らない、はい、わかりました。

〔3番「いやいや、後で持って帰ります」〕

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっと卒業式で、私、まだお昼食べていませんでしたので、持って帰りたいと思います。

〔市長「5,000円で売ります」〕

いや、だから、本当おっしゃるとおり、この佐賀牛すき焼き弁当、本当試行錯誤をずっと重ねてこられているんですよね。そのオーナー、池田さんがですね。その努力、私もちらちら拝見させていただいておったんですけど、本当うれしく思って、ちょっと御紹介をしました。

さらに、ただ、これ生まれは、でも新幹線活用プロジェクトの弁当をつくることから始まったとですよ。

〔市長「わかってます、わかってます」〕

さらにもう1つ、これ、平成23年の10月22日の西日本新聞です。これ、韓国のチェジュ島で人気というオルレですね。このオルレというのが武雄が絡んでいるというようなところで、最初、オルレ、何やろうかなと私は思ったとですけど、それ、ずっといろいろ説明を聞きながら、なるほどと、要は九州管内の観光のウォーキングコースのことですよ。じゃなかと……

〔市長「違う、違う」〕

じゃなかと。何か九州管内で4つ、ベストフォーのうちのいっちょに入ったというような話をちょっと聞いております。これについて、もう観光業界は物すごく期待されていますけど、ぜひこれについての説明をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

このオルレというのは、あ、これ出してもらったままで結構です。いいですか、出してもらって。（モニター使用）オルレというのは、済州島、チェジュ島ですね、チェジュ島の方言なんですね。どういうことかということ、我が家に帰るまでの細い道という意味がオルレという意味です。したがって、韓国も方言が非常にきついところで、今まで済州島、チェジュ島以外は、このオルレという言葉はチェジュ島だけの言葉だったんですね。ところがどっこい、今、このオルレという言葉が韓国の流行語大賞の中の10個のうちの7つ目か8つ目にランクインして、本当かいなと思ったんですね、ある人から聞いたときに。

先般、ソウルに伺ったときに、「オルレで知っとうですか」と聞いたら、「はい、知っています」ということで、あと、光州ですよ、光州、全羅南道の上の光州のところでも、言葉は違うんですよ、チェジュ島と。光州でも4つのコースがありますということで、これはある意味、街に近い、駅とか街に近くて気軽に手軽に風景のいいところを歩くと、しかも余りきついところはだめなんですよ。適度にアップダウンがあって、ゆっくり歩けるというも

のです。これは今、韓国の中で爆発的なブームになっています。特にチェジュ島オルレの会長さんとも武雄で実はお会いしましたけれども、この方の本はベストセラーになるぐらい、チェジュ島の観光を、今、引っ張っているところなんですね。

ですので、武雄、ちょっとモニターを切りかえていただけますか。（モニター使用）今度は九州オルレ武雄コースというのを、九州の4つ、認定をされましたので、そのうちの武雄、これ目玉になっています。こういうコースで、ちょっと見にくいんですけども、武雄温泉駅から、あと保養村ですよ、保養村のほうのあの奥のほうから歩いて、この下の部分ですよ、下の部分が保養村の部分ですよ。あとは武雄温泉駅の桜山のところとか、あとずっと歩いていくのがオルレのコースに、これ認定コースになっています。認定コースになった以上は、いろんな掲示板とかいろんな案内とかということになります。

実際こういう感じなんですね。歩いて行って、で、ここの真ん中の方がチェジュ島オルレの会長さんです。自分でひとりで編み出して、NPOでやっておられる方で、これを今後、今、韓国全部に広げて、今、九州に広げていこうということ、これは九州観光機構とJR九州さんも一緒になって広げていこうというふうになっています。実際、これ日本語の、これ大楠ですよ、コースに入っていますので、大楠のコースなんですけれども、あともう韓国語で、今、物すごく盛んに報道されています、実は。実際、今武雄でもこのオルレということでもうお見えになっています。「アンニョンハシムニカ」って言ってます。はい、そういうことで、我々としては、このオルレを、これだけで全部できると思いませんけど、佐賀のがばいばあちゃんに次ぐ、観光の大きな柱に育て上げていきたいと、このように思っております。いろいろ見えましたけど、後で。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

る説明いただきました。もうとにかく武雄の観光にとっては非常にプラスになると、これ、話を聞いたら、駅から駅にスタート、着ですよ。

〔市長「そうそう」〕

ですよ、これもやっぱり新幹線の機運アップには大きく影響があるわけじゃないですか。だから、私もそうかなと思って、ちょっとこれでこれを聞いたんですけど、とにかく、今回、それでちょっとこれから私、提案なんですけど、新幹線は観光面から見ても必要なツールであると、機運アップの取り組みが必要じゃないかなと思っておって、そこでの提案としては、これ、武雄も実績はあります。こういうふうに、これは東北新幹線の青森の取り組みなんですけど、新幹線を今後の子どもたちにももっとイメージをしてもらおうということで、絵画コンクールなんていうのをやっておられるんですよ。これをぜひ武雄でもやったらどうかなと、子どもたちも忙しいんですけど、結構夏休みの宿題とかにもうまく絡んで、武雄市主催

で教育委員会とタイアップしたような形で、こういう取り組みをやってみたらどうかと思いますけど、これについて答弁願います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほど話にありましたように、要不要論が飛び交う中では、なかなか学校で取り扱うというのは難しいわけですが、政府の方針で進めている新幹線でありますので、なかなか夏休みといえども、結構な、御存じのとおり宿題の量があつたりするわけであります。学校、校長さん方とも相談しながら、今後、検討はしていきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

確かにそうなんです。子どもたち、夏休みの宿題、ただ、うちも小学生がぞろぞろおるもんやけんですね、ようわかるとですけど、大体国語とか算数とかというやつは先に済ませて、最後に残っているのは、いつもこういう絵を描いたりとか書道だったり、工作だったり、自由研究みたいな感じですよ。今、結構、絵もどれをかくかというの、パターンがいっぱいあつとですよ。私はこいば描いた、これについての絵を描いた、私はこれについての絵を描いたというような、そのメニューの一つに、私は加えていいんじゃないかなと思ったわけですよ。おもしろい取り組みじゃないかなと思って、これだけをやるとなると、またなかなかちょっと寂しいものがあるんで、これにプラスして、今、全国各地、こういうラッピングバスが走いよつとですよ。世界各国ですね、これ、日本に限らず。ちょっとこういうふうな感じで、もう会社の宣伝とかいろいろあっています。これ、私の知り合いやけん、ちょっと勝手に使わせてもらいました。武雄もこういうふう、ゆめタウンの広告なんかが入って、これ、私、たまたま信号待ちの真後ろにとまったわけですよ。目の前、ゆめタウンの看板が、ぺたってつくと、そういうふうになるでしょう、バスやったら。私、こういうのにも、子どもたちのその取り組みのグランプリじゃないですけど、こういうのをやったらどうかと思ったわけですよ。こういう取り組みについて、ちょっと見解をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

これまでも将来の武雄市とか、自分たちの地域の未来はどうなるだろうと、そういう指導はたびたびやつとるわけでありまして、それを生かした形でラッピングバスであつたり、いろんなものに活用していただくと、そういうのは十分あり得ることかなというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

まさに「言葉にできる夢を持ちなさい」とおっしゃった教育長ならではの答弁だったと思います。こういうバスの、ラッピングバスなんかに持ち込むのもいいんですけど、武雄市だったらみんなのバスとかもあるわけじゃないですか。みんなのバスとかを利用したらどうかと、そこまでのコストもかからずに、またやれるんじゃないかなと思いましたんで、ちょっと提案をさせていただいております。ぜひ御活用いただければなど。

これ以外にも、絵以外でもこういう川柳もあるとですよ。これ、山内町のPTA連合会の方からちょっと御提供いただいてやったんですけど、こういうのもおもしろいなど、これも新幹線絡みで標語なり川柳なりやってもいいなというような感じで思っております。実際、こういう取り組みは、早くやるにこしたことがないと思っておりますので、ここら辺をぜひやっていただきたいなど、考えていただきたいなと思っております。

では、続いて教育について入ります。

今回、教育については、武道必修化、土曜学習会、特色選抜、高校再編と、教育をまた分けると4つ、ただ、武道必修化については、もう既に今議会でももう答弁なされておりますので、割愛したいと思います。

早速、土曜学習会ですね。今年度、武雄の子どもたちの学力アップを目指して開設されました土曜学習会ですね。市内中学3年生を対象に実施されましたけど、今年度実施された反省と、また、来年度へどのように考えられているのか、こちらについて、まず答弁をお願いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今年度10月以降取り組んできたわけでございます。土曜学習会、その後、アンケートをとっておりますけれども、（モニター使用）これが土曜学習会の模様でございます。講師の方の専門とか、あるいは人数であったり、あるいは重点とする教科等によりまして、やり方は幾らかの違いはあったんですけども、アンケートの結果では、生徒の意見として、参加してよかったかという問いに、92%の生徒が「大変よかった」「よかった」と答えていております。保護者の方も「大変よかった」という回答をいただいております、これが成果として、高校入試等に反映されれば、それ以上のことはないわけではありますが、いずれにしても、全体的に好評であったと、喜んでいただけたというふうに思っております。

もちろん幾つか課題はございます。土曜日にあけていただかないといけませんし、あるいは、何をどうさせた方がいいのかとか、そういう面で幾つか課題も当然出てくるわけでありま

すけれども、総じて好評であったと、いい評価をいただいたというふう思っております。

今年度は中体連の終了後、10月からいたしたわけではありますが、できたらもう一月ぐらい早めて9月ぐらいからできたらなというような思いを持っております。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

来年度は9月からをちょっとねらってみようと、中体連を終わってからみたいな感じの早い段階でということですよ。

これ、ちょっと小さくて見づらいかと思えますけれども、先日、県内の議員、同じような年代の仲間とちょっと豊後高田市のほうに視察に行ってきたわけですよ。豊後高田市といえば、昭和の町のほうで有名なんじゃないかなと思いますけど、その豊後高田市がこれを、もうかなり早い段階から取り組まれておりまして、2003年、2003年にこの学びの21世紀塾というような取り組みをなされているんですよ。これの中身をずっとレクチャーを受けてきたんですけど、武雄も土曜学習会をやることによって、結構、武雄でもやっていることをやられているところ、メニュー的にかぶっている部分というのはちょこちょこあるわけですよ。で、この豊後高田市は2003年から始まって、最初は大分県では県下で下から2番目やったらしいとですよ、子どもたちの成績が。それが、今、もう6年連続で県内トップらしいですけどもね。物すごく結果を出している、メニュー的にはこんなメニューですよ、このメニューをやっているということでしたので、何が言いたいかというと、ここが、公表ですよ、公表に報告、これ、もう見てわかると思いますけど、教育委員会は学力向上推進計画を地域住民に公表すると、まず、計画の段階を地域住民に公表しとるわけですよ。次を見てみれば、全国学力学習状況調査及び大分県基礎基本状況調査結果を速報で公表する。これも公表するのもホームページと市報ですよ。デジタル、アナログ、両方使って公表をしていると。ここまで徹底をして、とにかく教育に力を入れるというふうになっているらしいんですよ。もう昭和の町イコール教育の町ということで、この単行本を毎年1冊つくったみたいな感じ——毎年1冊やったでしょう、つくって、きょうちょっと、そっちにあるとですけど、持っています。それを市内に全戸配布しているらしいです。そこまで、もうとにかく豊後高田市は教育の町なんだ、昭和の町は教育の町なんだという取り組みをやられています。

この豊後高田市の市長さんは、今、人口が2万5,000人らしいんですけど、ほぼ、これをもうこの方法でやっていけば、3万人はいずれやってくるという自信持って言われていました。そんだけやられていますけれども、この豊後高田市、子ども、市内の小・中学生が1,600人ぐらいおるらしいとですけど、その1,600人が、いずれかの形でこの学びの21世紀塾にかかわっとるらしいんですよ。スタッフを見ると、学校の先生だったりOB、大学生、高校生、とにかく地域の皆さん、ありとあらゆる人の力をかりて結集してつくり上げているみた

いなんですけど、こういう取り組みについて、市長、どう考えられますか。（発言する者あり）いやいや、教育長、すみません。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変すばらしい取り組みだと思っております。実際に2年ほど前から親しくしていただいておりますが、確かに手本とさせてもらっているところもございます。また勉強して、武雄でもできるところは取り入れてやっていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私から補足の答弁をします。

ちょっとまた、前の見せていただけますか。（モニター使用）あ、ごめんなさい、その次です。ああ、ありがとうございます。ああ、なるほど、これ、あれですね、学校ごとには出していないわけですね。

〔「3番「学校ごとには出しとらんどたっですね」〕

市で出しているわけですね。ああ、なるほど。うちはあれなんですね、異論、反論は山のようにあるかもしれませんけれども、できれば学校別で出したいんですね、学校別で。別にその成績が悪いからといって、それが何か悪いというわけじゃなくて、やっぱり悪かったら、何で自分のところは悪いんだろうというのを、やっぱり総ぐるみで考えなきゃいけないと思うんですね。ですので、まさか小学校のときからは、それをちょっとしようというのは行き過ぎだと思いますが、よくこれも教育委員会として協議をして、実は議会で1回発表したんですよ。あれでも賛否両論ありましたよ。ですが、私はやっぱり一歩進めて、中学校は少なくとも学校別に、しかも科目ごとにきちんと出していくことが、やっぱり保護者の皆様方に対する説明責任になるだろうと思っております。ただ、ここは今後議論の余地があると思いますけどね。

それと、もう1つ、次、よろしいですか。何か私がつくったみたいすみません。これ、上田雄一て書いとったがいいですよ。で、ここの市長さんは、非常に私と比べても、非常に全然有能な市長さんで、御指導を実はいただいているんですけれども、やっぱりオープンなんですね、こういうふうに公表するていうのを、オープンにしていくというのが、一つ、基本になるというのは認識は同じです。

ちょっと私から最後にしますけど、一番最初の、はい、これですね。これ、さっき地域総ぐるみとおっしゃいましたけれども、やっぱり、前、藤原和博さん、リクルートをやめて民間で初めて杉並区立和田中学校の校長先生になった方が、何回か武雄で講演していただき

ましたけれども、あそこ、どんべだったんですよ。だけど、5年後か6年後にはナンバーワンに、杉並区立でぶっちぎりのトップになったときも、全く同じことなんですね。地域の方々をきちんと入れて、それはOBとかいろんな方々、公務員の皆さんとかも含めて、あそこはですね、大学生とか高校生まで教えに来るんですね。ですので、そうやって地域全体が盛り上がっていくということで、そういう意味でいうと、土曜学習というのは、最初のきっかけなんですね。ですので、これは学校の先生に物すごい負担が、今段階でもかかっていますので、負担を減らすことにもつながります、地域の皆さんたちが入っていくことによって。ですので、そういったことも含めて、よく教育委員会と話をして、一気にふやすと、やっぱり器をつくって魂入らずになりますので、徐々に徐々に広げていこうというように思っていますので、そこは議員さんと認識は全く同じであります。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

もう本当にそのとおりですよ。さっき、私ちょっと申し上げ漏れとったかもわかりませんが、ここも塾の講師とも連携をとっておられるんですよ。普通の学習塾の講師とも連携をとられています。このコンセプトが、もうとにかく塾に通えない子どもたちが近年ふえていると、経済格差が教育格差にあらわれては絶対だめだよということで取り組まれているそうです。民間との住み分けというのが、あくまでもこの学びの21世紀塾は復習のみ、予習は一切やらないと、予習、あくまでも学校の授業以降のことしかやりませんよという説明でした。だから、学習塾は今度、逆に予習をやればいいというようなことで住み分けをやられているんじゃないかなと思いましたんで、ぜひこの辺は、私、資料をたくさんいっぱいもらいましたので、必要であればやっても結構ですので、と思います。

続いて、特色選抜試験について入ります。

これもちょっと小さいので、もう見えません。見えなと思います。もう本当にA方式、B方式の募集人員、受験者、合格内定者で、これ、県教委、見えないで、ちょっともう合計だけを出します。これも見えなかもわからんですけど、今回、特色選抜がA方式、A方式は共通枠ですね、あくまでも学力での共通枠。で、B方式というのがスポーツ推進指定校枠、芸術推進指定校枠というような形で、1,469人の募集に対して5,800人ですよ、受験者が。もうどんだけの競争率かというような状況ではありますけど、今回、A方式について1,196人募集に対して、合格内定者は1,196人ですね。B方式に至っては、273人の募集に対して292人が受けたけれども、234人が合格内定をしたというような流れになっています。これは先日の質問でもあっていましたが、ことしから始まった制度です。これについて、情報は本当に少ないかと思えますけど、もう本当に少ないかと思えます。そういう答弁ありました。ただ、これをやはりこれだけの限られた材料は県内どこも一緒だと思います。武雄市は

これを研究されて、次年度の教育、進路相談に生かしていただきたいなと思いますけれども、御答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先日の御質問にもお答えしましたように、できるだけ高校入試を改善していこうということで、例えば、早く前期の推薦試験が終わった生徒が、なかなかその後の学校生活がうまくできないというような反省のもとに、選抜試験の方法が変わったわけであります。

1つは、もちろんプラス面もいろいろ考えられるわけですが、私立の高校との期日が非常に近くなったわけですね、試験の間隔が。それから、先ほど言われましたように、2回受験ができるんだというとらえ方なんですけれども、前のほうで恐らくその80%ぐらいが不合格になるという結果になるわけです。そうすると、中学生当事者にしてみますと、やっぱり不合格というのは精神的にショックを引きずる子どもさんもおられるわけでありまして、そういう面での反省というのは出てきております。

また、いろんな時間的にとか、方法的にとか、事務的な不備というのももちろん当然出てくるわけですが、一番はそのあたりの不合格者が非常に多く出て、そのあたりが一番の課題として、現在のところでは聞いているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、不合格者、その不合格者を出さないで、なるべく出さないで済むように進路指導に生かしていただければなと思いますので、もうちょっとこれは情報がとにかく少な過ぎるので、ただ、でも来年もこの制度で受験をする子どもがいるわけですから、やはりぜひ何とか考えてもらわんといかんなと思っておりますので、お願いしておきたいと思います。

続きまして、これも何度も何度もこの場でしています、高校再編ですね。

この高校再編については、ごらんになっていただければわかるように、ちょっとこれも見づらくもわかりませんが、県教委のほうから引っ張ってきました。これが基準で考えられているみたいなんです。この平成2年の1万4,458人をピークに、もうこれ見ても明らかに右肩下がりだなというのはよくわかるんじゃないかなと思います。平成23年度は8,983人、ピークからすると5,475人の減ですね。

これを学区別に見ると、これも見にくいので、ちょっとエクセルで打ち直しました。でいくと、こういう結果になります。東部学区、中部学区、北部学区、私たちの武雄市はこの西部学区に位置づけになりますけれども、どこも減少は進んでいるというようなところですけれども、このもともとのパイの数ですね、もう明らかに違うやんて思うとですよ。中部学区

はもちろん高校がいっぱい、佐賀市を含んでいますからね、一番多くなるのはなるかと思いますが、この武雄を含む西部学区は3,448人、何でかなと思ひよったとですよ。

そしたら、これがですね、県立中学校が県内に4校配置されています、学区ごとに。そして色分けをされて、これは実寸です——実寸というか、縦横は何も比率を変えていませんので。こう見るとですよ、この赤い部分が武雄を含む西部学区です。面積的にどがん見えんさつですか。私、何か県土の3分の1ぐらいは、もう西部学区やなかかなて思うとですけど、何かこの大きさとこの大きさとあんまい変わらんとやなかかなて、こうこうも余り変わらんとやないかなというような感じで、ちょっと私も思っているところがあります。

この学区分けですね、この学区分け、どう見ても、何かこの今ある学校基準でしか分けられとらんとやなかかなというような感じで、ちょっと私は思ひ受けるところがあるんですけど、これについて、教育長の考えというか、見解をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

この学区分けにつきましては、以前もお話したように覚えています、この西部学区につきましては、これをさらに伊万里地区、武雄・杵島地区、藤津・鹿島・太良地区という、この3つに分けてありまして、総数はこれ全部でいきますが、実際の高校の動きとかは、その3つの地区で分けてあると、そういうようなよそにないとらえ方をしてありまして、そのあたりもまた問題としてあると思っています。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

今の答弁からいくと、ここだけ、この西部学区も、またさらに3つに分けられているというような位置づけということですね。そしたら、それで人口、今の県教委が発表している、ちょっと1個前に戻りますけれども、これも分けてもらわんざおかしゅうならんかなというような感じもするとですよ。西部学区だけでもまたさらに3つ分けて記載してせんといかんやないのというような感じは、ちょっと私は見受けるところがあります。

いま先ほど、るるこういうふうには人口減少を見ていましたけど、武雄に限って、武雄に限ってです、これ市民課のほうから以前いただいた資料を、ちょっと私がせこせこせこせこ打ち込んで、ちょっとグラフ化したところです。これを見てみると、確かに減少はしていますよ。確かに減少はしていますが、これ、すみません、この下の数字は年齢です。ですから、今の年齢、自分の年齢が、あ、この辺かというような感じで見てもらえばわかると思いますけど、今の60代の人たちからすれば、確かに減っていますけど、今の50代以降で、そがん、確かに減少はしていますよ、減少はしていますけど、そこまでの大きな、さっきの学区ごと

での減少を見た場合とすると、そこまでの開きはないんじゃないかなと、ちょっと戻しますと、でしょう、ですね。もう1,000人ぐらい減つつわけですよ、西部学区で見れば。ただ、市内で見るとこういう状態ですよ。これは、ちょっと見にくいですけど、高校の分布図です。これ、ちょっと余り小さいので飛ばします。これが、私、毎回これ使っているんですけど、県内10市の高校の人口比率ですよ。で、今、この黄色が武雄市です。現在の武雄市。人口はすみませんが、平成20年の6月1日現在の分ですから、若干それからもうたっていますので、数字の変更は若干あるかと思いますが、武雄市では5万1,826人のときにつくった分ですから、1校ですよ。

ずっと見ると、公立だけ、このDのここの数字というのは、A割るBですので、A割るBをそのまま割った数です。5万、突出しとるわけですよ、武雄だけ。もしこれに、武雄市がもう1校高校があったなら、それがピンクです、仮の武雄市、2万5,913人、これでも県下で2番目です、上から。これでも県下から2番目。さらに、このEのところの数字ですね、これもA割る、このBとCを足した分、公立、私立を足した分ですね、これ、ちょっとすみません、順番がもうばらばらになりますけれども、これでも1万7,275人、これでもこの辺ですよ。県下でも真ん中、中間ぐらいの分。これだけやっぱり武雄市は、何ていうですか、学校に恵まれていないという言い方が適当なのかどうかちょっとわかりませんが、そういう状況になります。

ちょっとこれで、ここまで飛びまして、視点を変えますけど、高校の適正規模、先日ですね、県の審議会に行ったとですよ。県立高等学校生徒減少期対策審議会の傍聴に行ったわけですよ。そこで、議題に上がっていました、県立高校の適正規模はどの程度なのかというのがですね。そこであったのが、40人クラスの4クラスから8クラスの基準規模が一番理想的な適正規模だというような話がありました。それについて、まずちょっと教育長の見解をお聞きしたいなと思います。適正規模、県立高校、公立高校の適正規模はどういうふうに考えられているのか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

県立学校の適正規模でありますと、やっぱり私の立場で言える部分はないわけですが、県のほうは、今、話にあったように、40人学級の4学級から8学級ということで、ただ、きょう、新聞ごらんになったかわかりませんが、神埼高校なんか定員自体を40から減らすというような案も出ているわけでありまして、そのあたりについては、ちょっと流動的なところもあるのかなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

40人の4クラスから8クラスが適正規模ということでいけば、県内には公立高校が36校あるわけですよ。その36校のうち、その40人の4クラスを維持できていない高校が県内で11校ある。ほぼ3分の1が現状を満たしていない。ただ、そこはもう実業高校が3クラスでもいいんじゃないかというような見方はありました、確かに。審議会でもそういう意見出ていました。けど、40人の4クラスを維持できていないのが、県内でも3分の1の高校がそういうふうだと、そのうちの7クラスが西部学区に存在している、こういう状況だったらどうなんでしょうかねと、私も審議会傍聴していて、高校再編、もっと進めんといかんとやなかかなというような感じは受けたわけですよ。

それで、高校再編を考える上で、さらにそこでやはり通学の利便性だとか、所在の市による均衡ですよ、こういう10市なんかでも均衡ある再編を考えていただいて、できれば、私は武雄に再編をして、うまくやっていくような働きかけを県にするべきじゃないかなと思いますけど、これについて、県にとにかく強く要望していくことが必要じゃないかなと思いますけど、これについて、教育長の見解をお聞かせ願います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

教育委員会としても同様に考えております。先ほど数のことをおっしゃったわけですが、確かに400人台が続くことになります。一学年ですね、一学年400人台が続きますと、実質は御存じのとおり、青陵中に約半数が来ますので、160人の半数、80人ぐらいが市内に中学生の年代でおるということになるわけです。それに、高校にしますと、それに3クラスの半分、60人ぐらいが武雄に来ると、そうすると、西部学区の中でも武雄に、武雄市内のもともとの子どもたちの数に、あと80人は中学段階で少なくともふえると、つまり500人前後の子どもたちが市内にいるということになるわけでありますので、それを考えましても、あるいは、これまでもお話しました通学とかいろんなことを考えましても、今、御指摘のところは、教育委員会内でも話をしているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひですね、教育委員会としても考えているということであれば、もう一緒に県のほうに要望に行くときに、もう一緒にどんどん行きましょうよというような気持ちになります。逆に言うと、もう議会もこれまで決議文を出されたりした経緯もあるわけですよ。だから、もう議会からも言われてやぐらしかけんがていというような感じででも使っていただいて大に結構なんじゃないかなと思っています。（「同感」と呼ぶ者あり）ぜひそれをやっていただ

きたいと思っております。

ちょっと今、私は公立高校に限った話をやっていましたけど、ちょっと私立高校に視線を変えて、現在、市長の、以前私立の高校誘致の話をよくされておりました。これも現状がどうなのか確認を、これは相手あつての話ですから、言えるところ、言えないことあるかと思えますけど、言えるところまで結構ですので、現状を確認したいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁いたします。

これは、さきの平成18年、さかのぼること4年半ぐらい前ですかね、の12月議会で中高一貫女子校、武雄進出を検討ということで、佐賀新聞に出ましたね。このときは、実は、もう今、初めて話しますけれども、6割ぐらい、もうできそうになっていたんですね。当時の理事長であるとか、学校長であるとかが、次々に実は武雄にお見えになっていて、どういうふうにしようかなという話で、その当時答弁しましたけれども、新幹線が一つ課題になるよねとおっしゃった、それもクリア、今の段階でもうできていると、そのとき、その後、病院問題ですよ。こんな政争の激しいところにだれが来れますかといって、もう怒りの電話がかかってきて、しかも、その後、私はリコールは受けるわ、今は住民訴訟まで受けていますからね。ですので、もうこういったところにはとても来れませんということで言われました。

その間ですね、実はその、学校の名前は言いませんけれども、武雄をやめて、ほかのところにつくっているんですよ。ですので、本当にあとつかむ寸前のところ、これ、誘致の場合はよくあるんですね。誘致のところにはよくあります。これが特殊な話じゃなくて、本当につかみかけてだめになるというのも、私も、私ごとになりますけど、関西大学を誘致させていただいたときも、高槻の、その前に4つも5つもあったんですよ。なんで、それはやっぱり運のところもありますけれども、やっぱりね、リコールはきつかったですね。ええ。もう本当そこはね、それで徹底的に武雄市のイメージが、あれ結構報道されたじゃないですか、あれでもうやっぱりちょっと勘弁してよねという話がありました。

ですが、私は、ただでは起きません。ですので、今ですね、いろんな、特に看護、看護系ですよ、というところで、これからは介護、看護、需要が必ずふえてきますので、今、武雄市の看護学校、あ、ごめんなさい、もとい、新武雄病院の横の看護学校等があるじゃないですか、ですので、あそこを拡充していただくのか、それか、また別にお越しいただくのか、これから多分介護とか看護のニーズが特段にふえていくと思うんですよ。ですので、そういったこれから伸びるね、ここは議員と見解が違うかもしれませんが、やっぱり伸びるところの学校をぜひ誘致をしていきたいなというように思っております。

ここは、この前のところは、中高一貫の超進学校でしたので、例えば、東大とか京大に20

人、30人行くようなところだったんで、これはちょっと、今からというのはちょっと厳しいかなと、もう学校ができちゃったんでね、そういう意味では、甚だ残念であります。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

〔市長「やっぱいリコールばすっぎいかんさ、やっぱい」

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

もうまさにおっしゃったところは、というのは、実は私も今年度、ちょっと数校いろいろ知人を通して学校の、ある大学の理事長とか、あと、私立、高校、大学持っておられるところの学長と、いろいろ会える機会をいただいたんで、ちょっと相談に行ったとですよ、私も。高校誘致を考えてもらえんやろうかと、もう身銭を切っていました。

そしたら、1つは全然ちょっと規模が、考えられている規模とは武雄とパイが全然違うような感じだったんですけど、もう1つのほうは、結構いい感じの話は、感触はよかったとですよ。ただ、そのときに言われたのが、地元の盛り上がりはどがんですかて聞かれたわけですね。だから、地元の盛り上がり、急に聞かれたもんですから、私は今まで私に寄せていただいている声をもとに、さらに市長も学校誘致に取り組まばいかんというようなことを話されていますというところを言っていますけれども、今後もそういうスタンスで、やっぱりいいんですよ。企業誘致と一緒に、学校誘致は必要なんですよ。答弁願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

あの、これセットだと思うんですよ。企業誘致を、今、具体的に実は話があるというのは、この前の答弁で申し上げましたけれども、そういったことがセットになると、必ずやっぱり足りなくなるんですね。ですので、そういった中で、特にきょうの上田議員の御質問はインパクトがあったと思うんですね、具体的に数字で出されていたんで。そういったことを踏まえて、私は企業誘致と学校誘致というのはセットだと思っていますし、これで長所としてやっぱり病院なんですよ。新武雄病院というのはどなたもおっしゃいますので、そういったことで、私としては前よりも一層ね、学校誘致等に努めてまいりたいと、このように思っています。

最後にしますけれども、やっぱりブランドなんですよ。やっぱり全国に知られるところじゃないと無理です。やっぱりまだまだなんですよ。大分皆さんたちの市議会、市民の皆さんたちのおかげで、武雄は大分知られるようになりました。しかし、やっぱりそこに行ってみたいとか、住みたいとか、学校誘致したいということになると、まだまだなんですよ。ですので、もっと知られるようにね、知られることがブランドの向上につながると思いますので、ぜひ上田議員さんの若いお力をかりたいというふうに思ってね、はい、と思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、わかりました。教育についてはこの辺でとどめていきます。

続きまして、被災地支援のほうですね。

被災地支援、これは5月に行ったときの絵です。要は敷地内の瓦れきを全部道路べたに出さんと運んでくれないと、行政のほうはもう敷地内には入れず、敷地のその前の土地の道路べたにずっと瓦れきを置いて、それをずっと集められてというような流れになっているということでした。それが集まったのが、ずっとこういう感じになっていくわけですね。ちょっと私はもっと、10月に行ったときのほうが高かったとですけど、なかなか適当な写真がなくて5月の写真ばかりだったんですけど、状態的にはこんな感じです。

この被災地支援、その瓦れき受け入れの決議がなされましたよね、武雄市議会においても。この決議を、中身どがんなとととやていう話をやっぱり聞くわけですね。震災復興、被災地支援のことを入れていましたので、そこら辺でちょっとまあ、内容がリンクするところであるんですけど、この決議も具体的にはもう、必要なのはこの4行、肝はここだと思うんですね。

〔市長「そういうこと」〕

肝はですね。要は、中身は復興支援に対しては科学的な知見により放射能の影響を検証し、放射線量の測定等十分な体制を整えること、国に対しては広域処理の法律をつくらせることというところが、上2行のところですね。要はここでしょう。要は、残留放射線物質除去の確約をさせることを条件に、通常の廃棄物相当と判断されるものについての受け入れを表明するということを要請するという決議文ですね。もうここが、本当、この4行ですね、中身的には。今まで一度も、放射線に汚染されている瓦れきを持ってきますとかなんとかという話は出ていなかったと思います。

私個人にもいろいろ賛否両論、たくさんのお話をいただきました。中でいただいたのが、やっぱり自分は放射線に汚染されても仕方なくて、あいば見よぎんた、どがんかしてやりたいていう気持ちはあるて。でも、結局、自分の子どもとか、やっぱりそういうわけにはいかんていうことですよ。結局、みんなそがんやったです。私に寄せられた反対という意見はですね。そこら辺は、私もそがんですよて、放射線に汚染されとらん一般廃棄物、通常の廃棄物相当というところがなければ、私だって反対します、でも、それを条件ですからというところがいけば、結構皆さんやっぱり納得はされていただきました。

そいけん、もうそこで私、言いましたよ。私も1人の父親ですて、自分も子どもがおるわけですよ。放射線、そういう汚染をされているものてなるぎ、だれの子どもとか関係なかわけでしょう。自分の子どもだけ、もうそがんといかんよとか、そがんことはできんわけです

から、私も1人の父親ですから、自分の子も守りたかし、自分は武雄市議会議員ですから、武雄市の皆さんの命を守る責務がありますと、だから、任せてくれんですかと言いました、私、そのとき。

〔市長「えらい」〕

そこら辺、市長、考えとしてはどうでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、全く一緒ですよ。もう1回、ちょっと上田議員さんのパネルを出してほしいんですけども、さっきの確約のところ、あ、これです、これです。（モニター使用）これ、私のところにも賛否両論、メールがあります。実際ですね、ただ変わってきたのは、きょう、私はぶら下りの会見にも臨みましたし、来週の火曜日にKBCのニュースピアに生出演して、また自分の見解を申し上げようと思っていますけれども、そのときに、重ねて、きょうも言いますが、きちんと言えぱやっぱりわかってくださるんですよ。しかも、きょう、朝日町の、これ吉川議員さんも説明いただきましたけれども、朝日町の区長会の皆様方に説明したときも、実際一番多かったのはこの放射線の話なんですね。そのときに、この話をしました。重ねてしたときに、その後にポイントとして、線量計、線量計を、我々とすれば、もし持ってくるときは、我々は例えば、宮城とか、福島はないですからね、宮城とか岩手に行って、職員を派遣して、実際線量計ではからせます。もちろん国もはかります。そして、それもオープンにして、実際来るときも、全部データをオープンにした上で、その線量計も市民の皆様方とか環境団体の皆様方にレンタルします、線量計を。

これで、何を申し上げたいかというと、単に通常の廃棄物相当といっても、信用されていないわけですね、国がそもそも信用されていませんから。ですので、実際に線量計でもうはかってもらおうと思って、ということをして、もう何でもオープンにするということ、それを、もちろんのことながら、市報であるとか、それを含む広報、そして、ホームページにきちんと記載をするというところまでやらないと、多分信用されない。

それとフィルターの問題があります。よく誤解されていますけれども、可燃物と不燃物あるじゃないですか、可燃物と不燃物、この可燃物と不燃物で考えた場合に、杵藤クリーンセンターの場合は、可燃物はもう容量オーバーなんですね。もうとても震災瓦れきの中の可燃物というのは持つてくることができません。不燃物の部分だけは、20トン、日量20トン、たった20トンです。20トンの部分だけは、それは対応が可能ですよということで数値が出ているんですね。この部分については、持つてくる輸送路から含めて、すべてオープンにした上で、最終的な処分についてはこういうふうになりますということとはしてまいりたいと思って

いますし、もっと事前の説明を、これは議会でもる述べましたし、きょうの夕方のニュースとあしたの新聞は全紙出ると思いますけれども、私の考えとすれば、もう本当に慎重に進めていきたいと思います。

それで、お一人お一人が納得いけるように、特に地元住民の皆様方に、これは広く言えばきのうの山口昌宏議員、おとついですか、おとついに山口昌宏議員がここで趣旨説明、決議の趣旨説明で答えられていましたけど、地元はどこを指すんだといったときの質問に対して、それは杵藤広域圏を含めて、それは地元住民の皆様方だという答弁をいただきましたので、我々もそれを真摯に受けて、お一人お一人にきちんと説明をしていくということ、それと私から最後にしますけれども、繰り返しになって恐縮ですが、大分12月の頭と変わっているんですね。反対された方々、物すごく反対された方々いらっしゃったんですよ。特にお子さんを持つお母さんです。強烈に反対されていました。武雄市内の中でも。反対されていましたが、何人かお話をしたんですね、会いたいということで。また言われるかなと思ったら、いや、考えがもう変わりましたと、要はいろんな冷静な新聞報道等を見て、大分もう考えが変わってきて、例えば、8,000ベクレルね、8,000ベクレル／キログラムだったらね、もう私よりも詳しいです、うん、だったら大丈夫だというのはよくわかりましたと、ですので、国、県、市においては、もっとそれをわかりやすく説明してもらえませんか、逆に要請があったんですよ。ですので、そういったことで、我々としては議会のお力をかりながら、説明をしまいたいと思っております。これは、反対をされた平野議員さん、江原議員さんも同じ考えだと思うんですよ。被災地を何とかしたいというお気持ちに関してはね。だから、それはオール武雄市議会でもぜひお願いをしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっと時間がもう余りないので、どんどん行きたいと思います。

震災、武雄市が瓦れき受け入れの分は、今、被災地支援のほうですけど、今度は武雄市が被災した場合、そこを想定したときに、先ほどの吉川議員の質問でも出ておりましたが、庁舎の建設ですね、16億円程度かかると、これは合併特例債を使ってでも考えていかんといかんというところでしたけど、これ、私、以前の議会でも言いましたが、庁舎を考える上で絶対考えてほしいと思うのは、この体育施設ですよ。やはりメインになっているものの、例えば、体育館、16億円の庁舎の補強工事がそれだけかかるとなると、これをまず特例債でというふうな感じで考えていくとなれば、ぜひこれをやはり同じテーブルに乗せていただきたいなと思うわけですよ。

ここも、武雄市が被災した場合、もちろん武雄市役所、新庁舎も駆け込み寺としても避難所としても考えられるんじゃないかと思うわけですよ。同様のことが白岩体育館もやはり考

えられるとなったときに、これはただ、確かに前回の議会でしたか、私、質問したときにけられましたよね、もちろん。でも、やはりこれを考えていかんことには、特例債がなければ一生手つかずやなかかなと、手つかずというぎちょっと語弊ありますよ、なかなか考えづらいんじゃないかなと思うわけです。

ちょっとこれで質問しますが、白岩体育館は、いつごろ建てられて、総工費、建設費は幾らなのか、まず、それをお尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

49年12月に着工して、50年9月30日にでき上がっておりますけれども、総建設費として4億573万円かかっております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

4億円ですね、ちょっと私もいろいろ調べました。ちょっと若干誤差があるかも知れません。昭和50年に建てられたわけですね、これ、開館したわけですよ、白岩体育館自身が。総工費が4億573万円、本体工事が3億9,000万円、およそ4億ですたいね、およそ4億円。ただ、つくられたのが昭和50年ですよ。これが、今、維持補修費とかいろいろ雨漏りがしたりとかありましたよね。そこら辺で、今まで幾らぐらい補修費につぎ込まれているか、これを教えていただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

データの平成7年度以降で申し上げますと、平成7年度から平成23年度まで、約1億6,597万円程度、維持補修工事で要しております。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

本体4億円弱で建っている白岩体育館が、もう既に維持補修費で1億6,000万円ぐらいかかっていると、じゃ、これ昭和50年ですよ。で、これちょっと写真を撮ってきました。これ、天井部分です。もうこれ室内ですもんね。ちょっと私のカメラの精度が悪いんで、室内なのに、こういうふうに腐食があらこちらあるわけですよ。これ、小競技室のほうですけど、これもですね、見ると結構茶色の点々があるのわかりますかね。これ、拡大するとこんな感じですよ。これも室内の天井部分です。

こういうふうに老朽化、これからもっと加速していくんじゃないかなと思います。この後、今後、白岩体育館に維持管理費、補修費がどの程度見込めるのか、どの程度想定されているのかをお聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

なかなか難しい問題で、今、当面の経費という形で考えると、2,634万円程度は、今の時点でかかるかというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

じゃ、これまでの金額を足して、大体半分、2 億円ぐらいの維持補修費がもうかかっていくということですね。であれば、やはりこの年代に建てられた体育施設というのが、大体武雄市内は点在しているわけじゃないですか。せめてやはりメインになる 1 つは、やはり考えていくべきじゃないかなと、合併特例債の期間があるうちに、ここもやはり手を入れるべきじゃないかと、考えていくべきじゃないかと思いますが、この辺について答弁をお願いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれはきちんと答弁をいたします。

実は、いわゆる箱物ですよね、箱物については、御指摘の白岩体育館、そして頭を抱えているのは文化会館というのがあります。一方で、学校です、学校。そして、今度の、今、問題になっている、課題になっている庁舎ということで、大きく分けるとこの 4 つがあります。その中で、これは私と教育長がよく話をしているのは、まず学校を優先したいということで、合併効果の一つとして山内中が、こうなっているということは議員の皆さんたちも御賛同いただいたところであります。

学校がもう少し一段落しないと、やっぱり財政的にもショートします、一気にいくと。そして、今の課題でいうと、確かに白岩は、私も思っています。水漏れがあつたりとか、なんとかがあつたりとかありますけれども、もう 1 つ問題なのは、先ほど申し上げたとおり、文化会館の大ホールです。大ホールも、これまた何とかせんといかんわけですよ。ですので、これは、ぜひ議会の皆さんたちに、あれもこれもじゃなくて、あれかこれかの優先順位をつけてほしいと思います。

だから、私たちとすれば、まず——これは私の考えです、まず、学校。やっぱり子どもた

ちによりよい環境を整えるというのは、我々大人、政治行政の仕事だということで、これは議論の余地はないと思います。次に考えなきゃいけないの、実は市役所といっても、これ我々のためだけじゃないんですね。いろんな会議があつたりとか、いろんな交流のイベントがあつたりとか、手続にお越しになったり、これは、我々行政の職員、議員の皆さんもそうですけど、それ以上に市民の皆さんたちのものですし、ここは私の意向ですけれども、ぜひ危機管理棟を建てたいと思っています、危機管理棟を。ですので、そういう意味でいうと、次に優先順位は多分これが来るだろうと、市民のための市役所が来るだろうと、私自身は思っています。

そして、並行して文化会館と体育館が来ると思いますので、ここの議論をぜひしてほしいんですよ。今すぐ取りかかるというのは、庁舎のことに関してもまだ無理ですので、そこでぜひ議会で議論をしていただいて、何を優先順位つけるかということについては、ぜひ私たちを御指導していただきたいというように思っています。もとより、どこかのタイミングでやっぱり早いほうがいいには決まっているんですよ。決まっていますが、どこかのタイミングでしなきゃいけないのは、よくわかっています。

ただ、議員と見解が異なるのは、この白岩体育館を防災の拠点に使うということは全然考えていません。例えば、玄海のあの原発から、ここの距離というのは42キロメートルです、ちょうど42キロメートルです。そうなったときに、実際、事故の規模によりますけれども、例えば、福島原発のやつが起こるとは僕も思っていませんが、仮に起きたときに、ここに避難をするというのは到底不可能なんですね。そのときは、武雄市民は黒岩議員さんがおっしゃっているとおり、風向きにもよりますけれども、どこかやっぱり武雄市のずっと外に移住しなきゃ——移住というか、避難しなきゃいけないということ。

それと、水には浸かりませんけれども、やはり、例えば、水害の常襲地でありますので、そこはもう少し違うところに建てるべきだろうというように思っていますので、これは多分公民館機能を拡充したほうが、財政的にも実際問題としても、多分いいだろうというように思っていますので。ただ、いずれにしてもこれは私の見解ですので、間違いとかね、こういうふうにしたほうがいいということであれば、ぜひ教えていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

私の見解は、この庁舎を建て直して、白岩に持って行って、白岩体育館を別のところに移転して建てるというのが、私はそれが一番いい、武雄にとっては望まれる移転方法だと思っておりますので、ぜひそこら辺は頭に入れていただきたいなと思っております。

時間がないので、もうちょっとすみません、もう最後のところ一気に飛びます。

この一般質問、きょうで4日目です。きょう4日目やろう。（発言する者あり）きょう4日目でしょう。過去3日間、毎日火災が起きとつとですよ、武雄市内で。もうどうということだというぐらい、ただ、今回、この3つの火災は、とにかくひどくて、位置がわからないというような状況ではありませんでした。ただ、これまでの消防団の活動においては、ぼやももちろん火災に、すぐ連絡入るわけですよ。そのときに、場所を特定できんわけですよ。大火事だったら、もうここが燃えている、あそこが燃えているてわかりますけど、ぼやだったら、もうこの前においだけでしたもんね、私たち。現場を探しよるときに、積載車で回るとき、においだけ、あ、この辺くさか、この辺ばいて、どこやどこやて、でも、火が上がっとらんけん、もう見えんわけですよ。もうある程度消火されていた部分もありましたんで、だから、それをやはりいろいろ見物人がふえんとおかしいことになりますので、消火活動にも支障が出るかと思しますので、ただ、現場に急行する消防団員の皆さんには、せめてあらかたの位置確定をできる方法をとっておりますけど、これについての答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

あのモニターを（モニター使用）確かに上田議員さんがおっしゃるとおり、去年まではそうでした。例えば、公民館から北北西に332メートルとかですね、というふうになっていて、わかりにくかったんですけど、今、マップファンを添付していますので、ことしの3月からすべてのスマートフォンで見られるようになりました。そうすると、ここでもう位置がわかります。わかりますし、今後、さらにもう少し経路まで含めてできるように、今、実はお願いをしているところでありますので、ようやく我々が思いにね、これは結構、杵藤広域圏の議会でも問題になったんですよ。ですので、我々の思いが、技術がやっとな追いついてきてくれていますので、議員さんの思いは共有をしています。

いずれにしても、大分これでわかりやすくなっていますし、スマートフォンで見られるということと、あと、やっぱりここにも行く行くはi P a d等を入れていこうと思いますよ。今のi P a dの今度新しく、きょう、出るんですかね、きょう出るi P a dで、きょう、「朝ズバッ！」で武内小学校とか、MY図書館とか、私も出ましたけれども、その中でもi P a dというのは、今度ナビゲーションのかわりにも、どうもなりそうなんです、カーナビの。ですので、こういう防災の部分とカーナビゲーションということになると、もう自動的に音声も出ますので、そういったことで消防、特に消防団員ですよ、消防団員の皆様方がきちんとやっぱり正確に使えるように、我々自身もこういうシステムをつくってまいりたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

このマップファンですかね、これは現役の消防団員のみ登録制みたいな感じにするのか、時間、もう終わりですか。

○議長（牟田勝浩君）

終わりです。

○3番（上田雄一君）（続）

消防団みんなにしてください、幹部だけじゃなくて。そうしないと意味がないですから。

〔市長「はい、わかりました」〕

よろしくお願いします。

〔市長「今、しとうやろう。しとうですよ、今、しとうですよ」〕

いんにゃいんにゃ、できとらんで。

○議長（牟田勝浩君）

終わりでよろしいでしょうか。上田議員

〔3番「終わりです」〕

以上で3番上田議員の質問を終了させていただきます。